

市長新春の挨拶

～「心豊かに暮らせるまち」へ～



舞鶴市長
多々見 良三

あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、希望に満ちた新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、これまでのまちづくりの取り組みが、大きな輪となって結び付き、成果として表れてきた一年であったと感じております。

「引き揚げのまち・舞鶴」として、市民の皆様をはじめ、大変多くの皆様からお力添えをいただく中で取り組んでまいりました舞鶴引揚記念館収蔵資料のユネスコ世界記憶遺産登録に向けた活動につきましては、国内候補に決定いたしました。

また、舞鶴若狭自動車道が全線開通した7月には、京都府と連携し、北部5市2町が「海フェスタ京都」の開催に一丸となって取り組み、全体で約140万人の方にご来場いただき、大きなにぎわいを見せました。

このように、昨年は「海」とともに発展してきた本市が有する歴史の大切さと、未来へのさらなる可能性を再認識した年でありました。

本年は、京都縦貫自動車道の開通により、近畿・北陸・中部を結ぶ高速道路網が完成し、「海の京都」による北部地域への誘客向上、京都舞鶴港のさらなる機能強化により、陸路・海路を通じた「人」「モノ」の流れが飛躍的に増大し、観光、ビジネスなど交流人口の一層の拡大が期待されます。

市では、こうした好機において、未来に対して大きな希望の持てる「まちづくりの将来像」を全市民で共有し、また、広く舞鶴に魅力と可能性を感じていただくため、市内外に向け広く発信する新たな数値目標として『「交流人口300万人・経済人口10万人」都市・舞鶴』を掲げる考えであります。

「経済人口10万人」という目標は、全国的に人口減少が大きな課題となっている中、現在の定住人口8万6千人の減少を抑制し、その上で、交流人口の増加によって生み出される経済効果を加え、まちの活力を維持・向上させようとするものであります。

その実現に向け、今後のまちづくりの方針として、「心豊かに暮らせるまちづくり」を重点事項の柱に加え、地域の特性を最大限に活かし、豊かな自然の中で、心豊かに暮らすために必要な子育て、

教育、医療・福祉、防災、文化、芸術、スポーツなどの環境の充実を図り、雇用拡大、産業振興、観光振興などの推進による定住と交流促進につながる多様な施策を結集し、「住んでよし、働いてよし、訪れてよしの『選ばれるまちづくり』」を押し進め、国の「地方創生」のモデル地区となるような「舞鶴モデル」を構築し、目標とする「経済人口10万人」の元気なまちを目指したいと考えております。

そのためには、本市に生きる我々が、まちに誇りを持ち、まちの素晴らしさを伝えていかなければ「経済人口10万人」の目標は達成できません。

本市には、歴史や文化、豊かな自然、自然の恵み、そして優れた人材など多くのタカラモノがあります。こうした地域の素晴らしさを発信することで、タカラモノは輝きを増し、それを見たくて多くの方がやってきます。次代を担う子どもたちは、タカラモノのあるこのまちで暮らしたいと思えます。

戦後引き上げてこられた方の手記の中にもタカラモノが残されています。

(引揚者の手記より抜粋)

多くの者は素直に舞鶴の大勢の方々からの心からの歓迎を戴きました。

これはすさみきった状態から立ち直るよい機会ともなり、戦後の人生の出発点となりました。

私達にとっては、舞鶴は忘れることのできない第二の故郷であります。

舞鶴市民には、戦後66万人の引揚者をこうした「おもてなしの心」で、お迎えしたというタカラモノがあります。

本年は、戦後70周年、海外引揚70年の年にあたります。ユネスコ世界記憶遺産への登録に向けた取り組みの推進とともに、先人から受け継いだ「おもてなしの心」を次代につないでいきましょう。

年頭にあたり、市民の皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げまして、新年のごあいさつといたします。